

新宮山彦ぐるーぷ第1827回

持経宿 薪小屋設置とお堂屋根の下地補修

及び雨水槽据付作業など

◇実施日；平成27年07月25日(土)～26日(日)
◇参加者；山上皓一郎、根木俊明、児嶋道夫、川島 功、

田中稔昭。は1泊2日。梶野照雄・25・26日帰り。
26日；沖崎吉信、畑林秀味、畑林清子、橋本 梓、
村吉光夫、奈良新聞；木之下伸子記者。6名。

計11名(他1名)

7月25日(土) 晴

台風12号が週末に台風11号と略似たコースで接近する予報であったが、太平洋高気圧が強くなり、沖縄周辺にされることになった。その影響か参加者が少なかったが、作業に適した少数精鋭の参加者が集まった。根木さんは近隣の祭りや法事を断って、又、週末の小森での農作業を延ばした児嶋両氏の参加は、本当にありがたく作業が予定通り進められた。

先週週明けには、高気圧の縁に沿って南西からの気流により、和歌山・大阪辺りで大雨警報等が発令され、白谷林道が更に悪くなったのではと心配した。

持経宿への作業は、これまで殆んど雨の降りそうな曇空が多かったが、今日は朝から青空であり気分的にも晴々する。

白谷林道口で湯泉地温泉前泊の田中氏と合流、梶野氏が10分程前に先行したとの事。心配した週明け後の雨の影響はないが、路面は荒れている。

三叉路の持経宿改築廃材置場で、垂木約20本を児嶋車に積込み、持経宿に10時前に到着。

旧垂木、桧柱(10.5 cm角×3 m・6本)、ポリカ波板(6尺；5枚)

を荷降ろしすると共に作業に応じて各自持参した電動工具類などを宿内に運ぶ。又、山上さん寄贈の枕15個は毛布棚に備える。お堂裏側の屋根トタン・ルーフィングを剥いでの下地補修作業は、田中・梶野両氏、薪小屋設置(L540×W150 cm・内薪小屋は2間、1間は外壁無)は、根木・児嶋・川島が担当し、山上さんは適宜両作業を応援して貰う。



桧・柱材荷降ろし

通しボルト切断作業

宿建屋に薪小屋桁取付

宿建屋裏に隣接して建てる薪小屋は、最初に宿建屋の桁(高さ230 cm)に添って、筋違い材(厚さ6×1300 cm；2本)を平トタン上から、鉄用ドリル・木工用ドリルで建屋桁迄穴を開け、通しボルトで水平に固定して行く。通しネジボルトは高速切断機で切断し、バリを取りナットをはめる。宿建屋側の新設桁に垂木をのせ、柱+桁の高さは210 cmと決め昼食とする。

梶野氏は、発電機を動かす、持参寄贈の電子レンジでチンして暖かい弁当にして美味しい！と食べている。

昼食後、柱材を200 cmに切る。通常、木組の穴を彫りはめ込みするのだが、根木さんの提案で彫り込みせずに柱と桁をスクリュールボルト釘で固定する事にするが、児嶋さん柱幅の切り込みをすべきとのことから、桁に深さ1 cmの柱幅の切り込みすることにした。

これで従来の木組に比べ細工時間が大幅に短縮できた。

薪小屋の桁にする材(10.5 cm角×1300 cm)2本は、児嶋さん事前に本格的な金輪継ぎ細工(約を2時間)されたものである。

東石上へのせ、柱の位置に墨付けをして、柱位置に柱幅の深さ1 cmの切込みをノミで彫る。

柱を立て東石の羽子板穴を通してドリルで柱に穴を開けボルトで仮締めする。4人で桁を柱上に持上げ、柱位置の切込みに柱を合せ立て、横垂直のレベルを合わせ、柱間を板止めて柱を仮固定し、桁上から柱にドリルで穴を開け、そこにスクリューボルト釘をネジ込み、柱と桁をがっちり締付ける。

15時の休憩時には、児嶋車のソーラーバッテリーから100Vの変圧器で、小型冷蔵庫で冷やした西瓜だ！冷えていて甘くて美味しい、大きいので明日来宿の人に食べて頂くために半分残す。



昼食休憩中



桁に柱据付中



冷えた西瓜で休憩

小屋の横幅は、柱外面で150 cm。宿建屋側桁と小屋の桁の平行レベルを確認して、178 cmに切った垂木で釘止めする。両端柱を垂木で固定し、中間は別材で仮止めする。

薪小屋は、1378 cmのため、38 cm間隔で垂木を打ち、便所側迄1170 cmも垂木を打ち。

垂木に胴縁を打付け、桁と垂木間の隙間から風雪・風雨の吹き

込み防止の垂木材をはめ込み作業を残し、17時半前に作業を終える。

一方、お堂の屋根トタンとルーフィングを剥ぐと、野地板は全面取替の必要が無く、軒先側約35 cmの野地板と雨漏れしていた箇所のみ垂木1本のみ添え垂木をする。又、破風板は取替する補修で十分と判断された。

下地補修完了後、ルーフィングを敷くと、明日剥ぐ前屋根へ敷くルーフィングが足りない。又、野地板にルーフィングを止めるタッカー(ホッチキス)を持って来ない。

梶野氏は日帰りのため、明日来宿の沖崎氏へルーフィング手配の連絡とタッカーを持って再来宿をして頂く様にお願ひした。

当初、宿泊は田中・川島のみお互い夕食を持ち寄りすることにしていた。前日昼に新宮組は宿泊する事になり、当日朝、夕食弁当などオークワ有馬店に立寄り調達する。

根木さんは、賀田の榎本康夫氏から頂いた「鯖燻製」、山上さん「マグロのせせり」、川島「胡瓜もみ・ミョウガの甘酢漬」、児嶋氏「缶詰」、田中氏「漬物」等とおかずの多い夕食になり、冷えたビールで根木・児嶋両氏のお陰で薪小屋棟上に乾杯！

夕食の途中、お堂の酒確認に席を外した山上さんが戻らない、呼びに行くと思わない、電池を点検していると、千年桧への尾根から茜色に染まった夕日撮影に行っていたとのこと一件落着！疲れとビール・お酒の酔いで20時過ぎに就寝。気温23度、三日月の月光も差し込み快適な夜だ。

行動タイム

鵜殿 7:10→白谷林道口 8:55→9:50 持経宿→12:00 昼食 12:55→15:00 休憩 15:30→作業終了 17:20→18:10 夕食→20:00 就寝。

7月26日(日) 快晴

朝の陽光が宿内に差し込む頃に起きると、田中・山上さんは散歩に行かれた様だ。

朝食御飯は、「サトウの御飯」を電子レンジで2分間チンすると、ふくらした御飯が出来上がる。お湯だと約15分間煮ないと御飯にならないので、本当に便利だ！

田中氏1人でお堂の前屋根のトタン剥ぎ。根木・山上さんは、浦東大工さん寄贈のステンレス浴槽を第2雨水槽として据付作業。児嶋・川島は、薪小屋の屋根葺き作業をする。

ブロンズ・ポリカー波板は、便所上の屋根に3枚と2枚は宿建屋のポリカ外壁上に張ることにする。

取外した外壁トタンから傷みの少ない5枚を選び、6尺に鉄工用刃に替えた丸鋸で川島が切断し、児嶋さん垂木上の胴縁に傘釘で屋根を張る。



薪小屋棟上乾杯！

薪小屋・屋根トタン張り

お堂の下地造り

9時半過ぎに、新宮組4人(沖崎・橋本・畑林秀・畑林清)と村吉氏と同行の奈良新聞・木之下記者が来宿。直ぐに梶野氏もタツカ―持参して再来宿されたので休憩となり、児嶋車・冷蔵庫の冷えた西瓜と沖崎氏持参のハウス蜜柑を召し上がる。

この間、山上・沖崎・川島は、記者の取材に応じる。

村吉さんは、玉岡憲明さん揮毫「持経宿」を檼板に彫った表札看板を玄関上に掲示する作業。新宮組は持帰ったクリーニング済毛布を毛布棚へ。これで持経宿の備え毛布は、全てクリーニング

された。
お堂屋根の剥いだトタンとルーフィングの後片付け、その後、雨水槽の作業支援。梶野氏はお堂の前屋根トタン取替作業。に別れる。

お堂前屋根の野地板は、取替が無く破風板のみ取替する。
薪小屋には、取外し残った中窓の窓枠取付と外壁トタン張りの間柱を据える作業を行い、12時前に終え昼食となる。

児嶋さんは、昼食もせずに小森で農作業するために下山。

涼しい風も通り、大勢の参加者が集い賑やかな昼食となる。

13時過ぎに、深仙宿4時半に発った女性単独縦走者が到着、今晚、持経宿泊との事。水汲み後、作業を手伝って下さる。

村吉氏は引続き「持経宿」看板取付。沖崎・畑林秀・川島は、薪小屋に中窓取付と外壁用胴縁打ち作業。根木・橋本・山上さんは、雨水槽据付の生コン煉り作業、田中・梶野氏は、お堂屋根全面にルーフィング張り作業。

新聞記者下山前に「持経宿」看板掲示した玄関前で作業者の写真撮影。

持経宿の表札看板掲示により、改築された持経宿の格が更に上がった。



浴槽・オーバー水穴開け

持経宿の看板掲示

玄関前・本日作業者

薪小屋の中窓と外壁用胴縁取付作業が終わり、宿内の長尺残材を梁上に保管、短い残材は外に出し室内を整理した。

お堂の屋根の下地補修とルーフィングを張り終えた屋根には、ブルーシートを被せる。後は新規トタンを張るだけとなる。

雨水槽の据付作業が15時過ぎに終える。各自バラバラになった工具類を捜し集め、各自の責任で積み込みして15時40分下山。梶野氏は、池郷林道工事現場偵察へ、工事が完了し通過出来たとの事。

白谷林道口で田中氏は十津川方面のため別れ、新宮組は根木車駐車の紀宝町役場駐車場で解散。



第2雨水槽据付完了

お堂の下地補修完了

薪小屋屋根葺き完了

行動タイム

起床 5:30→6:00 朝食→7:15 作業→9:30 休憩 10:00→12:00 昼食
13:00→14:10 玄関前で撮影→15:10 作業終了→持経宿 15:40→
18:00 紀宝町役場P(解散)。

(記 川島)